

補足-400-1 地震応答解析における既工認と今回工認のモデル及び手法の比較
モデル諸元の既工認からの変更の確認結果について

既工認のモデルの諸元を変更することについて、建設時の資料の詳細を確認した結果を踏まえ、補足説明資料の記載を修正する。

1. 前回ヒアリングでのご説明 (4/3 ヒアリング資料抜粋)

2.4 その他の変更

R/B 建設工認モデルにおいて示されている EL. 38.8 m～EL. 34.7 m のせん断断面積及び断面 2 次モーメント並びに EL. 57.0 m の質点重量及び回転慣性重量の値が、転記元である設計図書と整合していないことを確認したため、実際に計算に用いられた値である設計図書に記載の値を R/B 今回工認モデルに用いることとした。

2. 建設時の工認図書と設計図書の関係の整理

建設工認から今回工認で諸元を変更した点について、工認図書と設計図書の解析モデル諸元の間を整理した。

4/3 資料では「転記元である設計図書と整合していない」としたが、工認計算書作成時の転記元設計図書が別版として存在し、その数値と整合していることを確認し、実際の計算もこの諸元を用いて実施していることを再現解析により確認した。

3. 今回工認での対応

今回工認においては、耐震要素の考え方の見直し及び諸元の精緻化を反映し、既工認モデルの諸元を一部変更する。

(1) E.L.38.8m~E.L.34.7m のせん断断面積及び断面 2 次モーメント

使用済燃料プールの壁について、既工認ではガーダー壁の下層部を含め耐震要素としてモデル化していた。今回工認では、耐震要素として考慮する壁は、上下階の床に接続しているものとし、ガーダー壁の下層部は下端が床に接続されていないことから耐震要素には含めないこととする。

(2) E.L.57.0m の質点質量及び回転慣性重量

既工認では当該層の質量にクレーン荷重を考慮していなかった。今回工認では質量の精緻化として、クレーン荷重を考慮することとする。

以上の内容を踏まえ、補足説明資料の修正を行う。